

# 平和でなければお酒も楽しめない

## 戦時中 配給で苦しんだ国民

### 止めよう 戦争法案

「憲法9条のおかげで平和は守られてきた」。酒の小売業者でつくる福岡県小売酒販組合連合会の元会長の大島和加丸さん(86)と、遠賀(おんが)若松小売酒販組合理事長の三好正一さん(79)の2人の政治談議に花が咲きました。

(唐沢俊治)

大島さん 戦争の反省のもと、憲法9条で戦争しないということになった。その憲法を変えようとするのは、安倍首相の最大の間違いですよ。

三好さん 日本のためなら分かるが、戦争法案は、そもそも外国、アメリカのためのもの。

#### 予科練で終戦

大島さん 私は194

予科練で終戦 予科練に行くのは学校に行けと言っていた。生徒にとつて「善れ」。しかし、私を予科練に送り出した帰り道、母は道でうずくまり泣き崩れたと、後に聞かれました。家族にとつては、人を殺して死ぬために育てたのではない。戦後、私は人を助けるために生きよう、

福岡県小売酒販組合連合会の元会長

大島和加丸さん(86)

遠賀若松小売酒販組合理事長

三好正一さん(79)



おおしま・わかまる 1928年生まれ。66年、酒販免許取得。82年、店舗をコンビニ化。2005年明らかになった、全国小売酒販組合中央会の資金流用事件の被害者救済に取り組む。

みよし・まさかず 1936年生まれ。現在、店頭販売はせず、昔からの得意先に配達。飲酒運転や未成年者の飲酒を防止するため、自販機を設置していません。

大島さん 安倍首相を降ろさないと、日本の将来は大変なことになる。子や孫に借金だけ残してはいけません。

三好さん 日本は、若者の人口が少なくなり、国の財政をどうするか問題になっている。高齢化社会になり、軍事費よりも社会保障にお金を使わなければならない。

それが私の責任だと思いましたが。

9条のおかげ

三好さん 終戦時、私は9歳。学校に行くとき、警報が鳴り防空壕(ごう)に逃げ込んだことを思い出します。負けていても「勝った」「勝った」。本当に勝っていると思っていた。

おやじは1938年、日中戦争で戦死した。写真で見るだけで、全然記憶はありません。おふくると2人で、酒屋を切り盛りしました。

今の日本は、品物が豊富だからいいけど、戦時中、配給制で困っていた。十分に物がなく、お酒が飲みたいくても飲めな

大島さん 2003年9月、酒の販売が完全自由化された。戦後、日本は「自由」になった。しかし、自分の自由だけでなく、相手の自由も尊重しなければ、それは単なるわがまま。大型店は安売りで経営が成り立つが、中小業者・商店街が消えれば国の税収だって上がらない。

な我慢していた。

大島さん 平和でなければ、酒は楽しめない。そりゃその通りだ。

三好さん 日本の平和がどうやって保たれてきたのか。9条のおかげで、戦争をしなかった。山崎さん(拓自民党元副総裁)や古賀さん(誠同党元幹事長)も、戦争法案の廃案を求めている。(日本共産党の質問で)自衛隊の内部文書が明らかになって、国会の審議がストップしたんですよ。

酒販自由化で

大島さん 2003年9月、酒の販売が完全自由化された。戦後、日本は「自由」になった。しかし、自分の自由だけでなく、相手の自由も尊重しなければ、それは単なるわがまま。大型店は安売りで経営が成り立つが、中小業者・商店街が消えれば国の税収だって上がらない。